

## 偏微分方程式・解説

ワイエルシュトラスの M 判定法を使うときに,

$$\sum_{k=1}^{\infty} ML^{k-1} \frac{|t-t_0|^k}{k!} \leq \frac{M}{L} (e^{L|J|} - 1) \quad (1)$$

を示した後,

$$\begin{aligned} |\mathbf{y}_n(t)|_{\mathbb{R}^N} &\leq |\mathbf{y}_0|_{\mathbb{R}^N} + \sum_{k=1}^n |\mathbf{y}_k(t) - \mathbf{y}_{k-1}(t)|_{\mathbb{R}^N} \\ &\leq |\mathbf{y}_0|_{\mathbb{R}^N} + \sum_{k=1}^n ML^{k-1} \frac{|t-t_0|^k}{k!} \end{aligned}$$

において右辺全体を  $M_n$  とおきましたが, そうすると

$$\sum_{n=1}^{\infty} M_n = \sum_{n=1}^{\infty} \left( |\mathbf{y}_0|_{\mathbb{R}^N} + \sum_{k=1}^n ML^{k-1} \frac{|t-t_0|^k}{k!} \right)$$

となってしまうおかしくなります. 正しくはワイエルシュトラスの M 判定法を応用するのは  $\mathbf{y}_n(t)$  ではなく  $\sum_{k=1}^n (\mathbf{y}_k(t) - \mathbf{y}_{k-1}(t))$  であって

$$\mathbf{y}_n(t) = \mathbf{y}_0 + \sum_{k=1}^n (\mathbf{y}_k(t) - \mathbf{y}_{k-1}(t))$$

の和の部分だけに注目し

$$\begin{aligned} \mathbf{z}_k(t) &:= \mathbf{y}_k(t) - \mathbf{y}_{k-1}(t), \\ |\mathbf{z}_k(t)|_{\mathbb{R}^N} &= |\mathbf{y}_k(t) - \mathbf{y}_{k-1}(t)|_{\mathbb{R}^N} \leq ML^{k-1} \frac{|t-t_0|^k}{k!} =: M_k \end{aligned}$$

とおき, (1) から

$$\sum_{k=1}^{\infty} M_k \leq \frac{M}{L} (e^{L|J|} - 1)$$

なのでワイエルシュトラスの M 判定法を  $\mathbf{z}_k = \mathbf{y}_k - \mathbf{y}_{k-1}$  に用いて関数

$$\sum_{k=1}^{\infty} \mathbf{z}_k = \sum_{k=1}^{\infty} (\mathbf{y}_k - \mathbf{y}_{k-1})$$

は  $J$  上で一様収束し, さらに  $J$  上連続であることをまず得ておきます. その後

$$\mathbf{y} := \mathbf{y}_0 + \sum_{k=1}^{\infty} (\mathbf{y}_k - \mathbf{y}_{k-1})$$

も  $J$  上連続であると推論すべきでした.